



## ティーチング・ポートフォリオ

大学名 東京都市大学  
所 属 人間科学部 児童学科  
名 前 大塚習平  
作成日 2022年8月30日

## 1. 責務

近い将来、保育士や幼稚園教諭を志している学生に対し、造形関連科目である「保育内容の理解と方法（造形表現）」（1年必修科目）、「造形」（2年選択科目）、「保育内容表現指導法」（2年必修科目）「幼児の造形表現指導法」（3年選択必修科目）を担当しています。

また、幼稚園教諭1種免許取得で必須となる実践的な科目（「幼稚園教育実習（1）」及び「幼稚園教育実習指導（1）」（2年選択必修科目）、「幼稚園教育実習（2）」及び「幼稚園教育実習指導（2）」（3年選択必修科目）を担当しています。

さらに、論理的思考力を養う「基礎ゼミナール」（1年必修科目）、「特別研究ゼミナール」（3年必修科目）、「卒業研究ゼミナール」（4年必修科目）を担当しています。

学務分掌では学生部委員会において厚生分科会主査として学生支援に努めています。他に事故防止対策委員会、リスク管理委員会に所属しています。

## 2. 理念

子どもにとって、表現することは呼吸することと同じくらい大切であることを理解し、子どもの目線に立ち、一人ひとりの違いや良さを認め育みながら、自らも表現に挑戦し、多様な素材を通して良さや性質に応じた表現方法を考え、表現する喜びを伝えられる保育者を養成します。

また、全ての学生のキャンパスライフが楽しく充実したものになるよう支援していきます。

## 3. 方法

造形担当科目では生自らが制作する事を通して、絵を描くことやものを作ったりすることの喜びを味わい、見通しを立てて取り組んだり、失敗しても諦めずに何度も挑戦したり、失敗の原因を考えて工夫して取り組んだり、皆と協力して取り組んだりすることを学べるような課題を設定しています。

具体的には、以下のような取り組みをしています。

子どもの成長・発達過程と表現には相関関係がある事を理解できる人材を育てるため、様々な実例を提示しながら、作業を通してまとめていくようにします。

現場で活用できる研究やアイデアを作成する事ができる人材を育てるため、模擬授業を通して多面的なアイデアの提示と多彩な事例を紹介しながら一緒に考えていきます。

個々の発達や目線に立ったテーマを設定できる人材を育てるため、保育現場での年間指導計画等、具体的な資料を読み解きながら一緒に考えていきます。

一人ひとりの考え方や作品の良さを多面的に捉える事ができる人材を育てるため、作品プレゼンテーションや相互鑑賞会によって認め合い、学び合うことができるようにします。

課題に対して協働して取り組む事の出来る人材を育てるため、教育実習指導を通して幼稚園の社会的意義や役割、法的根拠、幼稚園教諭の具体的な仕事内容について把握する事と、模擬授業を通し、指導案作成やグループでの活動や制作や話し合いの場を多く設定しています。

問題を発見したり整理したりする力や、問題解決に必要なデータ取集力やデータ読解力、まとめる力、論理的に構成する力、考察する力、プレゼンテーション能力、話し合う力を、ゼミナールの文献調査と発表を軸に育成しています。

学生部厚生分科会主査として、経済的に困窮している学生の奨学金選考について検討し、学生相談室と協力しながら学生の悩みや心配事に対応しています。加えて、キャンパスショップやなどの学内業者との調整を行ったり、学生からの要望やリクエストを汲み上げたりする事で、キャンパスライフがより魅力的で充実したものになるよう努めています。

#### 4. 成果

- ・振り返りアンケート調査の結果から、学生が授業を通して子どもの発達過程と子どもの表現の間に相関関係がある事を認識できるようになったことが明らかになりました。
- ・相互評価発表会を通して学生がお互いの作品の良さに気づき、コメントし合えるようになりました。こうした成果は、保育現場でも一人一人の作品を、認め励ますことに繋がっていくと考えられます。
- ・オンライン授業の際、アンケート調査を行い、メリットとデメリットを分析し、授業改善に努めました。オンライン型授業のメリットは、場所と時間を選ばず一人一人が主体的に課題に向き合えた事で、デメリットは、ちょっとした事で躓いた場合に、自力で先に進めなくなったり、互恵的成長の機会が減少したりする事です。この結果については美術科教育学会でも発表しています。
- ・授業内容が評価され、「TCU フロントランナー賞」を受賞しました。
- ・「授業評価アンケート調査」をベースにした「ベストレクチャー賞」を受賞しました。
- ・自身の表現活動においては、全国公募「二紀展」（国立新美術館）に出品し、毎年発表しています。

#### 5. 目標

##### (1) 短期目標

- ・環境に応じた課題設定を精査していくことにより、学生の負担を軽減しながら学習効果を上げていきたい。

##### (2) 長期目標

- ・対面授業とオンライン型授業、それぞれのメリットを活かし、教育・保育現場との繋がりを密にしながら、理論と実践のバランスについて学生と共に学んでいきたい。
- ・学生相互の学び合いによる学習の相乗効果を最大限にできるような学習環境や相互鑑賞のあり方について研究を重ねていきたい。

#### 6. 添付資料 （※オンライン公開版資料の添付は省略させていただきます）

1. 授業シラバス
2. 実技授業の動画記録
3. 履修者による授業評価アンケート
4. 立体制作作品と受賞歴
5. 研究発表実績